

シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校
理学療法学科 1年

2026年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単 位	単位時間数	時 間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけでなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習→授業→復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

理学療法学科 授業科目一覧

区分	カリキュラム	授業科目名	指定規則	学校指定	一年生				二年生				三年生				四年生						
					前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
					単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間			
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	14	2	30	2	30																
		物理学		2	30	2	30																
		英語		2	30	2	30																
		生物		2	30	2	30																
		情報科学・統計学		2	30	2	30																
		言語聴覚療法		2	30					2	30												
		公衆衛生学		2	30							2	30										
基礎分野・小計			14	14	210	10	150			2	30	2	30										
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学 I	12	4	60	4	60																
		解剖学 II		4	60			4	60														
		生理学 I		4	60	4	60																
		生理学 II		4	60			4	60														
		運動学 I		4	60			4	60														
		運動学 II		2	30					2	30												
		運動学実習 I		* 1	* 30			* 1	* 30														
		運動学実習 II		* 1	* 30					* 1	* 30												
	人間発達学	2		30					2	30													
	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	病理学		14	4	60			4	60													
		臨床心理学			2	30			2	30													
		内科学・老年学			4	60					4	60											
		整形外科学			4	60					4	60											
		臨床神経学			4	60					4	60											
精神医学		2	30						2	30													
薬理学	2	30								2	30												
健康科学・栄養学	2	30									2	30											
保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	4	2		30	2	30																
	リハビリテーション医学		2		30					2	30												
専門基礎分野・小計			30		54	840	10	150	19	300	21	330	2	30	2	30							
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論 I	37		2	30	2	30															
		理学療法概論 II			2	30			2	30													
		臨床運動学			2	30							2	30									
		理学療法症例研究		4	60							4	60										
	理学療法管理学	分野別理学療法学 I		4	60									4	60								
		理学療法評価学		理学療法評価学 I	2	30			2	30													
				理学療法評価学 II	2	30					2	30											
				理学療法評価学 III	2	30							2	30									
				理学療法評価学 IV	2	30							2	30									
				理学療法評価学実習 I	* 2	* 60							* 2	* 60									
				理学療法評価学実習 II	* 2	* 60								* 2	* 60								
				理学療法治療学	運動療法学 I	2	30			2	30												
	運動療法学 II	2			30							2	30										
	運動療法学 III	2			30							2	30										
	運動療法学 IV	2			30								2	30									
	運動療法学実習 I	* 1			* 30			* 1	* 30														
	運動療法学実習 II	* 1			* 30							* 1	* 30										
	運動療法学実習 III	* 2			* 60								* 2	* 60									
	物理療法学	2			30					2	30												
	物理療法学実習	* 1			* 30					* 1	* 30												
	義肢装具学	4			60							4	60										
	義肢装具学実習	* 1			* 30								* 1	* 30									
	日常生活活動学	2			30								2	30									
	日常生活活動学実習	* 2			* 60								* 2	* 60									
	分野別理学療法学 II	4		60										4	60								
	地域理学療法学	生活環境学		20	2	30								2	30								
		地域保健・福祉論			2	30												2	30				
	臨床実習	基礎実習		* 1	* 45			* 1	* 45														
		評価実習		* 6	* 270									* 6	* 270								
		評価実習セミナー		* 2	* 60									* 2	* 60								
		臨床実習		* 16	* 720											* 16	* 720						
		臨床実習セミナー		* 1	* 30											* 1	* 30						
	専門分野・小計			57	84	2,175	2	30	8	165	5	90	15	270	17	360	18	480	17	750	2	30	
	選択必修	卒業研究		理学療法総論 I	-	2	30			2	30												
				理学療法総論 II		2	30					2	30										
				理学療法総論 III		2	30								2	30							
				理学療法総論 IV		2	30													2	30		
卒業研究			4	60														4	60				
選択必修科目・小計			-	12	180			2	30			2	30			2	30			4	60		
合計			101	164	3,405	22	330	29	495	28	450	21	360	19	390	20	510	17	750	8	120		

注1) * は実習科目の単位 (学内実習及び臨床実習) 注2) 講義及び演習の科目については30時間の授業をもって2単位、学内実習科目は30時間の授業をもって1単位、臨床実習科目は45時間の授業をもって1単位とする。

1年生

2年生

3年生

4年生

心理学

物理学

英語

生物学

情報科学・統計学

医学に総合的に関係する知識

公衆衛生学

言語聴覚療法

薬理学

人間発達学

健康科学
栄養学

総合的な理学療法のとらえ方

生活環境学

地域保健・福祉論

疾病と障害に
関係する知識

整形外科学

内科学・老年学

臨床神経学

精神医学

病理学

臨床心理学

理学療法管理学

分野別
理学療法学I

医学の基礎

解剖学I

解剖学II

物理療法学

運動療法学II

生理学I

生理学II

物理療法学
実習

運動療法学III

運動学II

運動学実習II

運動療法学
実習II

運動学I

運動学実習I

義肢装具学

運動療法学I

理学療法による治療など

日常生活
活動学

分野別
理学療法学I

日常生活
活動学実習

分野別
理学療法学II

義肢装具学
実習

運動療法学IV

運動療法学
実習III

理学療法症例
研究

運動療法学
実習I

理学療法に必要な
「ヒト・ひと・ヒト」のとらえ方

理学療法
評価学III

理学療法
評価学IV

理学療法
評価学I

理学療法
評価学II

理学療法
評価学実習I

理学療法
評価学実習II

臨床運動学

リハビリテーション
理学療法のみならず

理学療法概論I

理学療法概論II

リハビリテー
ション医学

リハビリテー
ション概論

基礎実習

理学療法総論I

臨床実習

理学療法総論II

評価実習

評価実習
セミナー

理学療法総論III

理学療法の知識の統合

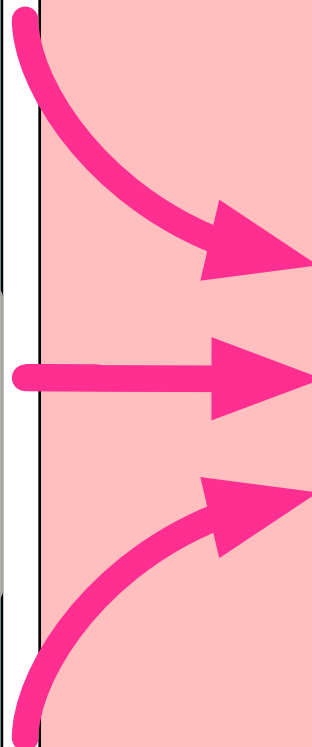
臨床実習

臨床実習
セミナー

卒業研究

理学療法総論IV

国家試験



授業科目名	心理学	実務経験講師	
担当教員名	倉田 万智子	実務経験	
開講年度	2026 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	心理学を概説的に理解する。 心理学の対象が多岐に渡ることを説明する。		
授業科目の到達目標	① 心理学の基礎を理解する。 ② 人間の行動を科学的に考察する能力を高める。 ③ 日常生活において「こころ」の重要性を理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	心理学とは	講義	
2	社会的行動	講義	
3	パーソナリティ	講義	
4	心理アセスメント	講義	
5	適応	講義	
6	発達とは	講義	
7	社会的発達	講義	
8	学習	講義	
9	動機づけ	講義	
10	情動	講義	
11	記憶	講義	
12	言語・思考	講義	
13	感覚	講義	
14	知覚	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	図説 現代心理学入門 金城辰夫 培風館
参考書・資料 等	配布資料
この授業科目の前提となる主な科目	特になし
この授業科目から発展する主な科目	臨床心理学、精神医学
成績評価の方法	小テスト 定期試験
その他 受講生への要望等	定説や常識を疑う視点を持ってもらいたい

授業科目名	物理学	実務経験講師	—
担当教員名	日向野 勝	実務経験	—
開講年度	2026年度	学 期	前期
年 次	1年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	理学療法士・作業療法士を養成するために必要な物理学を学習する。そのために、物理学の基礎的内容を理解し、理学療法や作業療法に必要な物理学に関する知識を得て、物理学の学習を通して科学的または論理的な考え方を養う。		
授業科目の到達目標	①物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。 ②物理学の学習を通して科学的な考え方を養い理学療法や作業療法の理解を深める。 ③物理学と理学療法・作業療法の関連を理解し、理学療法士・作業療法士の国家資格取得のための知識を身につける。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1. 物理学で学習すること(序章) 2. 物理量とその表し方(指数の計算、有効数字など)、章末問題	講義	
2	3. 物理学で使うグラフと関数 1数式とグラフ、2三角関数、3ベクトルの計算、章末問題	講義	
3	4. いろいろな運動 1位置と変位、2速度、3加速度、4等速直線運動 5 等加速度直線運動、6自由落下	講義	
4	4. いろいろな運動 7鉛直投げ上げ、8水平投射、章末問題	講義	
5	5. さまざまな力 1力とは、2力の単位、3重力、4張力	講義	
6	5. さまざまな力 5垂直抗力、6摩擦力、7弾性力、8圧力、章末問題	講義	
7	6. 力のつり合いと運動の法則 1力の合成と力のつり合い、2慣性の法則、3遠心力	講義	
8	6. 力のつり合いと運動の法則 4運動方程式、5作用反作用の法則、章末問題	講義	
9	7. 物体の重心と回転運動 1剛体の回転運動、2力のモーメントのつり合い	講義	
10	7. 物体の重心と回転運動 3重心とその求め方、4剛体の運動と剛体に働く力	講義	
11	7. 物体の重心と回転運動 5力のモーメントと3つのでこ、章末問題	講義	
12	8. 運動量、仕事とエネルギー 1運動量と力積、2仕事と仕事率	講義	
13	8. 運動量、仕事とエネルギー 3運動エネルギー、4位置エネルギー	講義	
14	8. 運動量、仕事とエネルギー 5力学的エネルギー保存の法則、章末問題	講義	
15	定期試験		

使用テキスト	PT・OT ゼロからの物理学(羊土社)
参考書・資料 等	<ul style="list-style-type: none"> ・物理図録、物理なぜなぜ事典、単位の辞典 ・物理療法マニュアル、新しい高校物理の教科書、 ・理化学辞典、応用物理ポケットブック
この授業科目の前提となる主な科目	<ul style="list-style-type: none"> ・高校物理 ・高校数学
この授業科目から発展する主な科目	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎理学療法学・理学療法評価学 ・運動学、作業学総論、作業学実習、基礎作業評価学
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業出席数、学習姿勢 ・小テスト、定期試験
その他 受講生への要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目的意識をもって授業に参加すること。 ・よく教科書を読んで疑問や分からないことは質問すること。 ・暗記ではなく、学んだ理論をもとに自分で考えて自分で問題を解くこと。

授業科目名	英語	実務経験講師	—
担当教員名	萩原 功夫	実務経験	—
開講年度	2026 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	○“sense groups”“discourse markers”を意識しながら、英語の語順で読むことを学びます。 ○「リハビリテーションに関わる医療分野」の英語を学びます。		
授業科目の到達目標	①英語の語順で、内容を理解できるようにする。 ②「リハビリテーション」に関する内容について、英語で理解できるようにする。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	INTRODUCTION 1. What is Health?	講義	
2	2. Exercise for Everyone	講義	
3	3. Overview of the Body	講義	
4	4. Exercise Programs	講義	
5	CHAPTER I 5. History of Rehabilitation	講義	
6	6. Physical Therapy & Therapists 7. Occupational Therapy & Therapists	講義	
7	CHAPTER II 8. Speech and language Therapy & Therapists Plane and Direction / Range of Motion (ROM)	講義	
8	CHAPTER III 9. The Skeletal System 10. The Muscular System	講義	
9	11. The Nervous System	講義	
10	CHAPTER IV 12. Bone Fractures	講義	
11	13. Chronic Low Back Pain	講義	
12	14. Arthritis	講義	
13	15. Spinal Cord Injury	講義	
14	Review & Pre-test	試験・講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	「リハビリテーションの基礎英語」(メジカルビュー社)
参考書・資料 等	印刷教材を配布
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	評価実習セミナー, 臨床実習セミナー, 卒業研究
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	教科書の内容を一つひとつ丁寧に学習していきましょう。

授業科目名	生物学	実務経験講師	—
担当教員名	石井 清	実務経験	—
開講年度	2026 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	地球で見られる生物は、約 38 億年前に初期生命の出現から長い時間をかけて進化した結果である。本講義では、ヒトの進化と人口増大による諸問題、ヒトの体をつくる分子や細胞の構造と働き、タンパク質合成やエネルギー産生のしくみ、体つくる細胞と生殖に関わる細胞の増殖のちがひ、受精と発生のしくみ、体内環境(栄養素、体温、水分など)の維持のしくみについて講義する。		
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① ヒトの進化、ヒト個体群増大の特徴と地球環境への影響について説明できる。 ② 体をつくるおもな分子の種類と働きを説明できる。 ③ 体をつくる細胞の構造と細胞内小器官の働きを説明できる。 ④ タンパク質合成と細胞が利用できるエネルギー産生のしくみを説明できる。 ⑤ 体細胞と生殖細胞の分裂のしかたとその意義を説明できる。 ⑥ 生殖の様式および発生過程の特徴を説明できる。 ⑦ 体内環境(栄養素、体温、水分など)が一定に保たれているしくみを説明できる。 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	ヒト進化、ヒト個体群増大の特徴と地球環境に及ぼす影響	講義	
2	生物体を構成する分子と働き：タンパク質、糖質、脂質、核酸	講義	
3・4・5	細胞の構造と働き：大きさや形、原核細胞と真核細胞、細胞膜の基本構造および機能(選択的透過性、浸透、受動・能動輸送)、細胞内器官：核、小胞体、リボソーム、核小体、ゴルジ体、小胞体、リソソーム、細胞骨格、タンパク質合成、ミトコンドリアとエネルギー産生(解糖系、TCA 回路、酸化的リン酸化)	講義	
6	細胞分裂：有糸分裂と無糸分裂、細胞周期、体細胞分裂と減数分裂	講義	
7	中間試験	試験	
8	生殖と発生：有性生殖と無性生殖、生殖器官と生殖細胞形成、受精のしくみ、動物の発生過程、器官形成、誘導	講義	
9	体内環境の調節(循環系)：血管系の発達、脊椎動物の心臓血管系：心臓の構造と律動的拍動のしくみ、血管系(動脈、静脈、毛細血管)	講義	
10	体内環境の調節(血液)：血液成分、血液細胞、造血部位、血液の働き(Bohr 効果)、赤血球膜の抗原、血液型(凝集原、凝集素：IgG、IgM)	講義	
11・12	体内環境の調節(肝臓と腎臓による調節)：肝臓の構造、肝臓による血液成分の調節、泌尿器系による水分含有量の調節：腎臓の構造、尿生成	講義	
13・14	体内環境の調節(ホルモンと自律神経)：内分泌腺、ホルモンの分類、作用機序(細胞膜受容体、細胞内受容体)、放出ホルモン、刺激ホルモン、視床下部とホルモン、甲状腺ホルモン、副腎ホルモン、自律神経(交感神経、副交感神経)による調節(血糖調節、体温調節、消化液の分泌調節)	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	配布資料「ZEROからの生命科学」木下勉・小林秀明・浅賀宏明 南山堂
参考書・資料 等	「ヒューマンバイオロジー」坂井建雄・岡田隆夫 医学書院 「Essential細胞生物学」中村桂子・松原謙一 南江堂
この授業科目の前提となる主な科目	高校生物
この授業科目から発展する主な科目	生理学 解剖学
成績評価の方法	定期試験と中間試験の成績(+学習態度を若干含む)により評価する。
その他 受講生への要望等	試験は選択方式と記述の複合型で行う。 復習してください。

授業科目名	情報科学・統計学		実務経験講師	—
担当教員名	羽山 潔		実務経験	—
開講年度	2026 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	統計学の基礎と情報リテラシーを学び、データに基づく思考力と ICT 活用能力を習得する。			
授業科目の到達目標	① データの収集と処理の仕方を理解し、統計処理及び分析ができる。 ② 表計算・ワープロ・プレゼンテーションソフト・生成 AIなどを効果的に活用し、データ処理やコミュニケーションツールとして活用できる。 ③ 情報倫理・セキュリティについて理解する。 ④ 基本的な PC 操作ができる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	・ オリエンテーション・統計情報学とは (科目の目的, 統計学と情報学の役割, PC の使い方, データからインテリジェンスへ)	講義・演習	
2	・ 「データ」とその処理 (データの種類(量的・質的), 集計, Excel 基本操作)	講義・演習	
3	・ 代表値(平均・中央値・最頻値) (代表値とその意味, Excel による計算演習)	講義・演習	小テスト
4	・ 散らばりの指標(分散・標準偏差) (データのばらつきとその意味, Excel 関数による計算演習)	講義・演習	
5	・ データの可視化と伝達性 (グラフの種類と特徴, Excel でのグラフ作成, 見やすい図のポイント, 情報の伝達性)	講義・演習	
6	・ 確率の基礎とデータの分布 (確率の概念, データの分布, 例題を用いた演習)	講義・演習	小テスト
7	・ 統計的推測(標本と母集団) (標本と母数, 平均値の推定, 統計学的有意性の検定)	講義・演習	
8	・ 相関と相関係数 (相関係数とは, 散布図作成, 相関の検定)	講義・演習	
9	・ 情報社会 (情報の特徴, デジタル化の影響, データの信頼性, Sociaty5.0 の時代, 生成 AI を使った演習)	講義・演習	
10	・ 情報倫理とセキュリティ (個人情報保護, 著作権, パスワード管理・セキュリティ対策)	講義・演習	小テスト
11	・ PC 活用①(ワープロ) (文章構成, 見出し・箇条書き, 図表挿入, 引用と参考文献)	講義・演習	
12	・ PC 活用②(表計算) (基本関数(SUM、AVERAGE、IF), ソート・フィルタ, 簡単な統計処理)	講義・演習	
13	・ PC 活用③(プレゼンテーション) (スライド構成, 図表の提示方法, 発表のポイント)	講義・演習	課題の提出

14	・ 総合演習① (テーマ設定, データ整理・分析, 作品制作)	講義・演習	
15	・ 修了テスト	演習	

使用テキスト	リハビリテーション統計学 石川郎:編 中山書店
参考書・資料 等	必要に応じて関連資料を配布する。
この授業科目の前提となる主な科目	中学・高校の数学
この授業科目から発展する主な科目	卒業研究、基礎実習、評価実習、臨床実習
成績評価の方法	小テスト・課題 40%、修了テスト 60 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	解剖学 I		実務経験講師
担当教員名	向山弘一、芳澤有希子、笠木広志、大門友加 谷中田修右		実務経験
開講年度	2026 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	理学療法士、作業療法士養成教育では、人体の構造を理解する解剖学は基幹科目である。解剖学 I では、教科書とノート(ワークブック)を用いて、必須事項である肉眼的な人体の運動器(骨、靭帯、関節、筋、神経など)の構造を理解する。		
授業科目の到達目標	① 人体の構造・名称について図を見て示すことができる。 ② 人体の構造・名称について該当位置を自分の身体を用いて示すことができる。 ③ 人体の中樞神経・末梢神経について大まかな経路を説明することができる。 ④ 脳神経、自律神経系の概要を説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1・2	向山	1 限:人体の区分と名称 2 限:骨の構造、頭部の骨、脊柱の骨、胸部の骨	講義	
3・4	谷中田	1 限:上肢の骨(上肢帯、上腕、前腕、手部) 2 限:上肢の骨(続き)	講義	
5・6	笠木	1 限:下肢の骨(骨盤、大腿骨、下腿、足部) 2 限:下肢の骨(続き)	講義	
7・8	大門	1 限:関節の構造 2 限:関節・靭帯(頭頸部、脊柱、胸郭、肩、肘、手部)	講義	
9・10	大門	1 限:関節・靭帯(骨盤、股、膝、足部) 2 限:筋の構造、形状	講義	確認テスト (骨・関節・靭帯)
11・12	大門	1 限:頭部の筋、頸部・背部の筋 2 限:胸部・腹部の筋	講義	
13・14	笠木	1 限:肩・上腕の筋 2 限:前腕・手部の筋	講義	
15・16	笠木	1 限:骨盤・股の筋 2 限:膝の筋	講義	
17・18	笠木	1 限:下腿・足部の筋 2 限:筋の総まとめ	講義	確認テスト (骨・関節も含む)
19・20	谷中田	1 限:中枢神経系の構成 2 限:大脳、小脳、脊髄	講義	
21・22	谷中田	1 限:大脳、小脳、脊髄 2 限:錐体路(下行性伝導路)	講義	
23・24	谷中田	1 限:錐体外路(上行性伝導路) 2 限:その他伝導路	講義	
25・26	向山	1 限:腕神経叢、上肢の神経と筋支配 2 限:腰神経叢、下肢の神経と筋支配	講義	

27・28	芳澤	1 限:脳神経 2 限:自律神経系	講義	確認テスト (プレテスト)
29・30	谷中田	定期試験	試験	試験

使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版, 野村巖 編, 医学書院 理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第4版, 中島雅美 編, 医歯薬出版
参考書・資料 等	プロメテウス 解剖学アトラス 第4版, 坂井建雄, 医学書院 標準解剖学, 坂井建雄, 医学書院 人体解剖学, 藤田恒太郎, 南江堂 解剖学, 清水勤治, 金芳堂
この授業科目の前提となる主な科目	保健体育、理科(生物)高校までの内容
この授業科目から発展する主な科目	医学系全般
成績評価の方法	定期試験:80%、確認テスト:10%、授業態度(出席率を含む):10%
その他 受講生への要望等	医学を学ぶ上で、全ての科目の基礎となる科目である。新しく覚えることが多々あるため苦勞するだろうが、頑張って覚えてほしい。

授業科目名	解剖学Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	船越政範		実務経験	医師
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	30回	
単 位 数	4単位	単位時間数	60時間	
授業科目の概要	理学療法士、作業療法士養成教育では、人体の構造を理解する解剖学は基幹科目である。解剖学Ⅱでは、必須事項である人体の器官(感覚器、循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器、内分泌など)について、肉眼的な構造と機能を理解する。			
授業科目の到達目標	① 人体の感覚器系の形態および機能について説明することができる。 ② 人体の循環器系の形態および機能について説明することができる。 ③ 人体の呼吸器系の形態および機能について説明することができる。 ④ 人体の消化器系の形態および機能について説明することができる。 ⑤ 人体の泌尿生殖器系の形態および機能について説明することができる。 ⑥ 人体の内分泌系の形態および機能について説明することができる。 ⑦ 人体の体表解剖学について説明することができる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1・2	感覚器系 ～外皮、視覚器～	講義	
3・4	感覚器系 ～平衡感覚器、嗅覚器、味覚器～	講義	
5・6	内臓器官の基本的構造～中空性器官、実質性器官～ 循環器系～心臓～	講義	
7・8	循環器系 ～循環系の分類～	講義	
9・10	循環器系 ～動脈系～	講義	
11・12	循環器系 ～静脈系、胎生期の循環系～	講義	
13・14	呼吸器系 ～鼻、咽頭、喉頭～	講義	
15・16	呼吸器系 ～喉頭、気管と気管支、肺、胸膜と縦隔～	講義	
17・18	消化器系 ～口腔、咽頭、食道、胃～	講義	
19・20	消化器系 ～小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜～	講義	
21・22	泌尿生殖器系 ～泌尿器系、生殖器系～	講義	
23・24	内分泌系 ～ホルモンと標的器官、内分泌腺～	講義	
25・26	局所解剖学と体表解剖学 ～総論、体幹～	講義	

27・28	局所解剖学と体表解剖学 ～上肢、下肢～	講義	
29・30	定期試験	試験	

使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学, 野村巖 編, 医学書院 理学療法士・作業療法士 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第3版, 中島雅美 編, 医歯薬出版
参考書・資料 等	標準解剖学 坂井建雄 医学書院 人体解剖学 藤田恒太郎 南江堂 解剖学 清水勘治 金芳堂
この授業科目の前提となる主な科目	生物学, 解剖学 I
この授業科目から発展する主な科目	医学系全般
成績評価の方法	期末試験
その他 受講生への要望等	医学を学ぶ上で、全ての科目の基礎となる科目である。新しく覚えることが多々あるため苦勞するだろうが、頑張っ覚えてほしい。

授業科目名	生理学 I	実務経験講師	—
担当教員名	荒井 興夫	実務経験	—
開講年度	2026 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	生理学は身体の構造とその機能を明らかにする学問である。身体を構成する各種器官について学ぶが、これらの器官は単独で働くことはなく、すべて有機的に結びついている。それは生存とさまざまな活動のために身体の内部環境を適切な状態に保つ仕組みである。これはホメオスタシス(生体恒常性)と呼ばれ、生理学はこれを明らかにする学問とも言える。生理学1では身体の活動や行動に関わる機能を学ぶ。運動の実行器官である筋、筋に指令を伝える神経、その神経の活動を起こす脳と脊髄、さらに運動と結びついた感覚系について学習する。		
授業科目の到達目標	①運動と行動の基礎となる神経・筋・シナプスの働きを説明できる。 ②運動と行動のための脳・脊髄の働きを説明できる。 ③運動と行動に不可欠な感覚の働きについて説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1. 生理学概論 ①生命の基本単位、②ホメオスタシス 2. 細胞の構造と機能 ①細胞膜、②細胞小器官	講義	【予習】生理学テキスト P.45～49 P.52～55 【復習】前回分小テスト
2	3. 神経細胞と活動電位(=興奮)の発生 ①神経細胞、②静止膜電位 ③活動電位(閾値・閾膜電位・全か無の法則・不応期・Na チャネル)	講義	P.50～52 P.56～61 P.514～516
3	④活動電位の伝導(跳躍伝導・伝導速度) 4. 活動電位(=興奮)の伝達 ①神経筋接合部(アセチルコリン・アセチルコリン受容体・終板電位)	講義	P.518 P.120、121、91 【復習】前回分小テスト
4	②シナプス伝達(EPSP・IPSP・シナプス電位の加重・可塑性・長期増強・長期抑圧) 5. 軸索輸送と神経の再生(除神経過敏・神経成長因子)	講義	【予習】生理学テキスト P.93～96
5	6. 筋収縮 ①骨格筋の構造(筋線維・筋原線維) ②筋収縮の機序と興奮収縮連関(滑り説・筋小胞体)	講義	P.97、100 P.97～99 【復習】前回分小テスト
6	③骨格筋の力学的性質(強縮・運動単位) ④骨格筋の力学的性質とエネルギー代謝	講義	【予習】生理学テキスト P.102～104
7	⑤赤筋と白筋 7. 運動系 ①運動制御の階層構造(皮質脊髄路・脳幹・脊髄)	講義	【予習】生理学テキスト P.115、187～189 P.116～119 【復習】前回分小テスト
8	○中間試験 ②脊髄反射(1)(伸張反射・筋紡錘・ガンマ系)	試験 講義	P.110～113 P.105～110
9	脊髄反射(2)(Ib 反射・折りたたみナイフ反射) 脊髄反射(3)(屈曲反射・脊髄ショック)	講義	【予習】生理学テキスト P.123、124、134 P.124～127 【復習】前回分小テスト

10	③脳幹の姿勢反射 (除脳固縮・持続性頸反射・前庭頸反射・立ち直り反射・前庭動眼反射・歩行運動)	講義	P.123~133 P.165~171、P.182 【復習】前回分小テスト
11	④大脳皮質(層状構造・細胞構築学的分類) ⑤大脳運動皮質(一次運動野・運動前野・補足運動野)	講義	
12	⑥大脳基底核(基底核の疾患・直接路と間接路) ⑦小脳(小脳障害・小脳神経回路網・運動学習)	講義	【予習】生理学テキスト P.45~49 P.52~55 【復習】前回分小テスト
13	8. 感覚系 ①感覚一般論(感覚器・感覚伝導路・感覚野) ②体性感覚(1)(皮膚感覚と深部感覚・触圧覚)	講義	P.50~52 P.56~61 P.514~516
14	体性感覚(2)(温冷覚・痛覚・体性感覚伝導路) ③視覚(眼球・視細胞・暗順応・視野)	講義	P.518 P.120、121、91 【復習】前回分小テスト
15	定期試験	試験	【予習】生理学テキスト P.93~96

使用テキスト	配布プリント、生理学テキスト第8版 大地陸男著 文光堂
参考書・資料 等	1)標準生理学 本郷・廣重監修 医学書院 2)人体の正常構造と機能 坂井建雄・河原克雅編著 日本医事新報社
この授業科目の前提となる主な科目	生物学、解剖学
この授業科目から発展する主な科目	運動学、病理学、神経内科学、内科学、整形外科学 (理学療法学科)物理療法学、運動療法学、高次脳機能等 (作業療法学科)作業学総論・実習、基礎作業評価学、身体評価学等
成績評価の方法	定期試験(中間試験を含む)
その他 受講生への要望等	○生理学は難しい教科とされています。そして医学や医療の基礎でもあります。そのため、モチベーションを高くして授業に臨んでください。 ○生理学に限りませんが、聞き慣れない生理学用語が数多く出てきます。これらは医療人の基礎的な言葉です。医療人同士の会話やレポートには必要な用語です。当然ですが用語の意味を知り理解することで記憶に残り、言葉として使えることになります。用語を覚える努力を惜しまないでください。 ○講義は配布プリントに従って進めます。プリントを見ただけでその内容を理解できるわけではありません。プリントは未完成な状態です。講義をしっかり聴いてそこにはないことをメモすることで完成します。そのことを忘れずに講義に臨んでください。 ○授業スケジュールの「課題/小テスト」欄にあるページは生理学テキストのページです。予習として内容に対応するところを読んで授業に臨んでください。テキストには図が多く含まれます。漫然と読むのではなく図を理解する目的で読んでください。受講後、復習を繰り返して図について説明できるように努力して下さい。

授業科目名	生理学Ⅱ		実務経験講師	—
担当教員名	荒井 興夫		実務経験	—
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	30回	
単 位 数	4単位	単位時間数	60時間	
授業科目の概要	生理学は身体の構造とその機能を明らかにする学問である。身体を構成する各種器官について学ぶが、これらの器官は単独で働くことはなく、すべて有機的に結びついている。それは生存とさまざまな活動のために身体の内部環境を適切な状態に保つ仕組みである。これはホメオスタシス(生体恒常性)と呼ばれ、生理学はこれを明らかにする学問とも言える。生理学2ではホメオスタシスを念頭に置いて、脳や脊髄あるいは末梢の神経や筋の活動を支えるための呼吸器系、循環器系、栄養補給系、排泄系について学習する。			
授業科目の到達目標	①呼吸器系と循環器系の仕組み及びそれらと身体運動との関連を説明できる。 ②生命の維持と日常の活動に必要な栄養補給の仕組みを説明できる。 ③ホメオスタシスを呼吸器系、肝臓、腎臓、内分泌、体温調節等から説明できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1. 感覚系 ①感覚一般論(感覚器・感覚伝導路・受容野・順応) ②体性感覚(1)(皮膚感覚・深部感覚・触圧覚)	講義	【予習】生理学テキスト p.123、133 p.124～126
2	③体性感覚(2)(温冷覚・痛覚・体性感覚伝導路) ④視覚(眼球・遠近調節・視細胞・視野・視覚伝導路)	講義	p.128、135 p.165、167、175
3	⑤聴覚(聴覚器の構造と音の受容・聴覚伝導路) ⑥前庭感覚(球形嚢・卵形嚢・半規管) ⑦味覚(味細胞、味蕾、5基本味説) ⑧嗅覚(嗅上皮、嗅球)	講義	p.151、153～156 p.162 p.143 p.148
4	2. 血液 ①血液の構成(血球・血漿) ②赤血球(ヘモグロビン・造血・溶血)	講義	p.225～227 p.227、229 【復習】感覚系小テスト
5	③白血球(好中球・単球・抗体・免疫応答) ④血小板(止血・血液凝固・血液型)	講義	p.234、239 p.248、254
6	3. 循環器系 ①心臓(心臓の構造・刺激伝導系・心臓の収縮性) ②心電図(12誘導・心電図成分・不整脈)	講義	p.259、260、279 p.272、274 【復習】血液小テスト
7	③末梢循環(血管の構造と役割) ④血圧と循環調節	講義	p.285、287 p.294、316
8	4. 呼吸器系 ①呼吸器の構造(気道・肺・肺胞) ②呼吸運動(呼吸筋・呼吸の仕組み・呼吸調節)	講義	p.334、336 p.338、339 【復習】循環器系小テスト
9	③スパイロメーター(肺容量・肺のガス交換) 5. 消化と吸収 ①口腔内消化(唾液・咀嚼・嚥下・食道)	講義	p.339、350 p.368～370
10	②胃消化(胃小窩・胃液分泌・胃液分泌の調節) ③小腸・肝臓(管腔内消化・膜消化・栄養素の吸収) ④大腸(胃大腸反射・排便)	講義	p.371、377 p.382、383 p.374～376 【復習】呼吸器系小テスト

11	6. 腎機能(ネフロン・濾過と再吸収・排尿) 7. 脳波・睡眠(脳波の分類・ノンレム睡眠・レム睡眠)	講義	p.455、464 p.212、p.215、216 【復習】消化吸収小テスト
12	8. 内分泌 ①ホルモン・下垂体(ホルモン受容体・下垂体ホルモン) ②血糖値に関わるホルモン(インスリン・グルカゴン)	講義	p.395、403 p.424
13	③成長に関わるホルモン(成長ホルモン・甲状腺ホルモン) ④血圧に関わるホルモン(副腎髄質) ⑤カルシウムに関わるホルモン(上皮小体ホルモン)	講義	p.403、421 p.411、 p.431、433 【復習】腎機能小テスト
14	9. 自律神経(交感神経系・副交感神経系) 10. 体温(熱産生・熱放散・体温調節)	講義	p.85、89 p.504~508 【復習】内分泌小テスト
15	定期試験	試験	

使用テキスト	配布プリント、生理学テキスト第8版 大地陸男著 文光堂
参考書・資料 等	1)標準生理学 本郷・廣重監修 医学書院 2)人体の正常構造と機能 坂井建雄・河原克雅編著 日本医事新報社
この授業科目の前提となる主な科目	生物学、解剖学
この授業科目から発展する主な科目	病理学、内科学、整形外科学 (理学療法学科)物理療法学、運動療法学、高次脳機能等 (作業療法学科)作業学総論・実習、基礎作業評価学、身体評価学等
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	運動学 I		実務経験講師	
担当教員名	笠木 広志・谷中田 修右・向山 弘一		実務経験	
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	30 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	「運動学」は身体障害領域を学ぶうえで必須の基礎科目であり、PT・OT の基礎医学に分類される。この授業では、運動学の基本的概念および身体メカニズムを、骨・関節・筋・神経系からなる運動器を主体に学習する。			
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 物理学を利用し、生体に加わる力の作用を説明することができる ② 頭頸部・体幹、および 6 大関節の基本構造を説明することができる ③ 各関節において、関節運動の立体的イメージを説明することができる ④ ③を理解し、運動連鎖がどうして起こるのかを説明することができる ⑤ 関節運動の破綻より、生じ得る障害を説明することができる 			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1・2	笠木	1 限:総論, 力学の基礎, 関節の構造・分類・運動方向 2 限:ニュートンの法則, てこ, ベクトルとモーメント	講義	
3・4	笠木 谷中田	1 限:運動学の基礎の振り返り 2 限:肩関節(肩関節肢位変化に伴う, 緊張組織の変化)	講義	
5・6	谷中田	1 限: 肩関節(scapulo humeral rhythm, force couple) 2 限:振り返り	講義	
7・8	谷中田	1 限:肘関節(側副靭帯・骨間膜の機能, 筋の起始-停止からの疾患イメージ) 2 限:振り返り	講義	
9・10	谷中田	1 限:手関節(手の安静・機能的肢位, 手のアーチ, 手部および手指の変形) 2 限:振り返り	講義	
11・12	笠木	1 限:中間試験 2 限:振り返り	講義	中間試験
13・14	笠木	1 限:股関節(トレンデレンブルグ徴候, デュシェンヌ現象) 2 限:振り返り	講義	
15・16	笠木	1 限:膝関節(十字靭帯の機能, 側副靭帯の機能) 2 限:膝関節(screw home movement, locking mechanism)	講義	
17・18	笠木	1 限:足関節(内返しと外返し, 側副靭帯の機能) 2 限:足関節(Windlass effect, 足のアーチ, 足と足趾の変形)	講義	
19・20	笠木 谷中田	1 限:振り返り 2 限:頭頸部・体幹(椎間関節面から考える脊柱の運動方向, 頸部・胸部の機能)	講義	
21・22	谷中田	1 限:頭頸部・体幹(呼吸のメカニズム, 腰部の機能, 顔面および頭部の機能) 2 限:振り返り	講義	

23・24	向山	1 限:運動学習① 2 限:運動学習②	講義	
25・26	向山	1 限:運動学習③ 2 限:運動学習④	講義	
27・28	向山	1 限:運動学習⑤ 2 限:運動学習⑥	講義	
29・30	笠木	1 限:振り返り 2 限:期末試験	試験	試験

使用テキスト	中村隆一・斉藤 宏 著「基礎運動学」医歯薬出版, 配布資料
参考書・資料 等	1)津山直一 訳「新・徒手筋力検査法」協同医書 2)Donald A. Neumann 著 嶋田智明・平田総一郎 監訳「筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版 3)坂井健雄監訳 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 医学書院 4)カパンディ 著 荻島秀男 監訳「カパンディ 関節の生理学」医歯薬出版 5)David Paul Greene 他著 嶋田智明 監訳「キネシオロジー-日常生活活動の運動学」医歯薬出版 6)カリエ 著 荻島秀男 訳「運動器の機能解剖」医歯薬出版 7)細田多穂 監修「運動学テキスト」南江堂
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学, 物理学, 運動学実習 I
この授業科目から発展する主な科目	運動学 II, 運動療法学, 臨床運動学
成績評価の方法	評価時期:終講時 評価対象及び配分:中間試験(50%), 期末試験(50%)の結果から評点を決定する.
その他 受講生への要望等	「運動学 I」は主に解剖学(運動器系)と物理学(力学)がその基礎となる. 必要に応じて各自, 予習・復習すること.

授業科目名	運動学実習 I		実務経験講師
担当教員名	笠木 広志		実務経験
開講年度	2026 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	触診技術は、関節可動域テストや筋力評価をはじめとした、様々な評価技術を修得する上での基礎となる。この授業では、骨・関節・筋を中心として実際に触診を行い、人体を立体的に把握できるようになることを目標とする。		
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 解剖学 I で学習した、運動器の構造について立体的にイメージすることができる ② 骨・関節・筋を中心として実際に触診を行い、人体を立体的に把握できるようになる ③ 各関節において、関節運動の立体的イメージを説明することができる ④ ③を理解し、運動連鎖がどうして起こるのかを説明することができる ⑤ 運動学 I で学習する内容の理解を促進する 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション(触診の仕方) 肩関節周囲の触診(骨・関節)	講義・実習	
2	肩関節周囲の触診(三角筋, 大胸筋, 棘上・下筋, 大・小円筋)	講義・実習	
3	肩関節周囲の触診(広背筋, 烏口腕筋, 上腕二頭筋, 僧帽筋, 菱形筋)	講義・実習	
4	肩関節周囲の触診(肩甲挙筋, 小胸筋, 前鋸筋) 肘関節周囲の触診(骨・関節), 肘関節周囲の触診(上腕二頭筋, 上腕筋, 腕橈骨筋, 上腕三頭筋)	講義・実習	
5	肘関節周囲の触診(肘筋, 円回内筋, 長掌筋, 橈側手根屈筋, 尺側手根屈筋, 長・短橈側手根伸筋, 尺側手根伸筋, 総指伸筋)	講義・実習	
6	手関節周囲の触診(骨・関節), 手関節周囲の触診(小指伸筋, 示指伸筋, 長・短拇指伸筋, 長拇指外転筋)	講義・実習	
7	手関節周囲の触診(浅・深指屈筋, 長拇指屈筋, 拇指球筋)	講義・実習	
8	手関節周囲の触診(小指球筋, 虫様筋, 骨間筋), 股関節周囲の触診(骨・関節)	講義・実習	
9	股関節周囲の触診(腸腰筋, 大腿筋膜張筋, 縫工筋, 殿筋群)	講義・実習	
10	股関節周囲の触診(深層外旋六筋, 長内転筋, 薄筋, 大内転筋)	講義・実習	
11	膝関節周囲の触診(骨・関節), 膝関節周囲の触診(大腿四頭筋)	講義・実習	
12	膝関節周囲の触診(ハムストリングス, 膝窩筋), 足関節周囲の触診(骨・関節)	講義・実習	
13	足関節周囲の触診(骨・関節), 足関節周囲の触診(前脛骨筋, 長趾伸筋, 長母趾伸筋, 下腿三頭筋)	講義・実習	
14	足関節周囲の触診(後脛骨筋, 長趾屈筋, 長母趾屈筋, 腓骨筋群)	講義・実習	
15	期末試験	実技テスト	期末試験

使用テキスト	配布資料
参考書・資料 等	1)坂井健雄 監訳「プロメテウス解剖学アトラス」医学書院 2)河上敬介・磯貝香 編「骨格筋の形と触察法」大峰閣 3)鈴木重行 編「ID 触診術」三輪書店 4)「触診」 Journal Of Physical Therapy メディカルプレス 5)林典雄 著「運動療法のための機能解剖学的触診技術」メジカルビュー社
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学
この授業科目から発展する主な科目	運動学 I (理学療法学科)理学療法評価学, 運動療法学
成績評価の方法	評価時期:終講時 評価対象及び配分:授業態度および期末試験の結果から評点を決定する。
その他 受講生への要望等	「運動学実習 I」は主に解剖学(運動器系)がその基礎となる。必要に応じて各自、予習・復習すること。また、如何に多く触診するかで、触診技術レベルが左右される。放課後などの空いた時間を有効活用し、必ず自主練習を実施すること。

授業科目名	病理学		実務経験講師	○
担当教員名	川又 均、和久井 崇大、小宮山 雄介		実務経験	歯科口腔外科医師
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	30 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	総論として疾患のもととなる細胞・組織の異常を分類し、各臓器病変が共通の成り立ちを有することを理解する。各論として臓器ごとの疾患の成り立ちを学び、疾患は各臓器の異常としてのみならず、個体全体に関連する異常であることを理解する。			
授業科目の到達目標	<p>総論</p> <p>①疾患のもととなる細胞・組織の異常を分類することができる。</p> <p>②各臓器病変が共通の成り立ちを有することについて説明することができる。</p> <p>各論</p> <p>③臓器ごとの疾患の成り立ちを説明することができる。</p> <p>④疾患は各臓器の異常としてのみならず個体全体に関連する異常であることを説明することができる。</p>			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	川又	1 限:オリエンテーション・病理学の領域(総論) 2 限:細胞・組織とその障害(総論)	講義	
2	川又	1 限:再生と修復(総論) 2 限:循環障害(総論)	講義	組織・細胞分類テスト
3	川又	1 限:炎症(総論) 2 限:炎症(総論)	講義	再生修復・循環障害復習
4	川又	1 限:免疫とアレルギー(総論) 2 限:免疫とアレルギー・感染症(総論)	講義	炎症復習
5	川又	1 限:代謝異常(総論) 2 限:老化と老年病(総論)	講義	免疫細胞・血球系細胞分化テスト
6	小宮山	1 限:新生児の病理(総論) 2 限:先天異常(総論)	講義	代謝異常復習
7	川又	1 限:腫瘍(総論) 2 限:腫瘍・生命の危機(総論)	講義	先天異常復習
8	和久井	1 限:総論中間試験／呼吸器(各論) 2 限:歯・口腔系(各論)	講義	総論中間試験
9	和久井	1 限:内分泌器系(各論) 2 限:造血器系(各論)	講義	呼吸器口腔復習
10	小宮山	1 限:腎・尿路系(各論) 2 限:生殖器(各論)	講義	内分泌器・造血器系復習
11	川又	1 限:循環器(各論) 2 限:循環器(各論)	講義	腎・尿路・生殖器復習
12	和久井	1 限:脳・神経系(各論) 2 限:運動器系(各論)	講義	循環器復習
13	小宮山	1 限:感覚器系(各論) 2 限:病理検査(各論)	講義	脳神経・運動器復習

14	川又	1 限:消化器(各論) 2 限:消化器(各論)	講義	感覚器系・病理検査 復習
15	川又	定期試験	試験	

使用テキスト	カラーで学べる病理学 第5版, 渡辺照男編 ヌーヴェルヒロカワ
参考書・資料 等	1)標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 梶原博毅編 医学書院 2)標準病理学 町並陸生、秦順一編 医学書院 3)からだの構造と機能 A.シェフラー S.シュミット著 西村書店
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学、組織学
この授業科目から発展する主な科目	全ての臨床科目の基礎になる。
成績評価の方法	1)総論終了後は確認試験(原則的に国家試験形式の選択問題)を行う。 2)期末の定期試験(原則的に国家試験形式の選択問題)は総論と各論を含む全範囲とする。 3)成績は授業への出席、授業中の発言、総論の確認試験、期末定期試験で総合的に判断する。
その他 受講生への要望等	課題については講師が講義中に口頭確認する。小テストは10分程度で筆記。 積極的、主体的に学ぶことで病理学(病因・病態)の理解を深める。

授業科目名	臨床心理学	実務経験講師	
担当教員名	メンタルヘルスケアネットワーク	実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	後期
年 次	1年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	臨床心理学やカウンセリングの概念・療法や臨床現場の実際について学び、体験し理解する。心理検査の概要や施行法を学び、体験する。		
授業科目の到達目標	①臨床心理学やカウンセリングの概念・療法や臨床現場の実際について説明することができる。 ②心理検査の概要や施行法について説明することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	第01回 オリエンテーション(臨床心理学とは?)	講義 グループワーク	
2~6	第02回 カウンセリングの理論1(精神分析学) 第03回 カウンセリングの理論2(行動心理学・認知心理学) 第04回 カウンセリングの理論3(認知行動療法) 第05回 カウンセリングの理論4(人間性心理学) 第06回 カウンセリングの理論5(その他の理論)	講義 グループワーク	
7~8	第07回 心理査定法実習1 第08回 心理査定法実習2	講義 実習	
9~12	第09回 精神疾患と診断基準 第10回 精神疾患の理解1 第11回 精神疾患の理解2 第12回 精神科医療の動向・スティグマについて	講義	
13~15	第13回 心理査定法と面接 第14回 心理的支援について考える・総括 第15回 試験	講義 グループワーク	

使用テキスト	1)「心理学・臨床心理学概論」山蔦圭輔著 北樹出版 2)「まるごとわかる！精神疾患」山蔦圭輔著 南山堂
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	心理学
この授業科目から発展する主な科目	人間発達学・精神医学・基礎実習・評価実習・臨床実習
成績評価の方法	1)定期試験 2)授業態度(授業でのロールプレイやその他実習への積極的な参加)
その他 受講生への要望等	現在の学生生活や将来の臨床実践で活かすことを目的に積極的に学んでください。

授業科目名	リハビリテーション概論		実務経験講師	
担当教員名	笠木広志・他		実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	リハビリテーションの概略や歴史、現状を学ぶことを目的としている。保健・医療・福祉を中心にリハビリテーションに関して体系的に理解し、それぞれの分野における問題を知る。			
授業科目の到達目標	① リハビリテーションの概念・理念と社会における必要性について理解する ② 医学的リハビリテーションと理学療法士、作業療法士の役割について理解する ③ リハビリテーションマインドを理解する ④ 健康・疾病と障害について理解する ⑤ 障害構造・障害分類を表記できる			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	笠木	オリエンテーション, リハビリテーションの理念と歴史	講義	
2	稲毛	リハビリテーションの領域(医学・職業・社会・教育的リハ)	講義	
3	笠木	国際障害分類 ICIDH	講義	
4	笠木	障害分類とリハビリテーションの基本的アプローチ	講義	
5	笠木	国際生活機能分類 ICF	講義	
6	笠木	国際生活機能分類 ICF, リハビリテーションの過程	講義	
7	笠木	前半の振り返り	講義・テスト	小テスト ① 障害分類, リハ領域
8		多職種連携教育(IPE)初期演習	AL	
9	大門	地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション	講義	
10	芳澤	医療チーム・リハビリテーション看護	講義	
11	稲毛	医療・福祉と法律	講義	
12	田村	精神障がいのリハビリテーション	講義	
13	野尻	障害者の心理的諸問題	講義	
14	野尻	後半の振り返り	講義・テスト	小テスト ② 廃用, ADL・QOL, 様々なリハ領域
15	笠木	期末試験	テスト	期末試験

使用テキスト	椿原彰夫 編著「リハビリテーション総論」診断と治療社, 配布資料
参考書・資料 等	1) 中村 隆一 著「入門リハビリテーション概論」医歯薬出版 2) 砂原 茂一 著「リハビリテーション概論」医歯薬出版 3) 砂原 茂一 著「リハビリテーション」岩波新書 4) 上田 敏 著「BLUE BACKS リハビリテーション」講談社

この授業科目の前提となる主な科目	解剖学 (理学療法学科)理学療法概論 (作業療法学科)作業療法概論
この授業科目から発展する主な科目	(理学療法学科)理学療法評価学 (作業療法学科)作業学総論Ⅰ・Ⅱ, 作業学実習Ⅰ・Ⅱ
成績評価の方法	評価時期:終講時 評価対象及び配分:定期試験(80%), 小テスト(20%)
その他 受講生への要望等	この科目を通し, 自分自身の将来像を少しでも描けるようになって欲しい. 予習も然ることながら, 復習が大切な授業です. 各自必要に応じて学習を進めること.

授業科目名	理学療法概論Ⅰ		実務経験講師	—
担当教員名	矢口・向山・芳澤・笠木・大門・谷中田		実務経験	—
開講年度	2026年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	理学療法士の「情意領域」の基本となる倫理観等に関して理解する。社会人としての基本に加え医療人としての基本も合わせて、行動変容の基盤をつくる。			
授業科目の到達目標	① 理学療法及び理学療法士についての概要を理解し、説明ができる ② 自分の進路を確認し、今後の学習に対する素地を養う ③ 理学療法士の基礎知識となる骨・関節と身体運動について説明できる ④ 関節可動域制限、筋力低下の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑤ 自分の目指す理学療法士像を大まかに描くことができる			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	向山	導入(医療を学ぶ学生の心得、学習について)	講義	
2	向山	基本的人権	講義	
3	向山	社会的倫理について	講義	
4	向山	職業倫理について	講義	
5	矢口	理学療法総論(関連法規)	講義	
6	大門	身だしなみについて	講義	
7	大門	接遇、マナー	講義	
8	大門	同上	講義	
9	芳澤	医療人としての適性および基本的態度	講義	
10	芳澤	同上	講義	
11	谷中田	理学療法士としての適性と資質	講義	
12	谷中田	同上	講義	
13	谷中田	理学療法における基本的用語	講義	
14	谷中田	同上	実技	
15		定期試験	実技試験	

使用テキスト	配布資料
参考書・資料 等	上田 敏 他編,リハビリテーション医学大辞典,医歯薬出版 高橋哲也 他編,理学療法概論 第7版,医歯薬出版 三谷保弘 他編,3ステップで学ぶ 理学療法スタートブック,ヒューマン・プレス 日本リハビリテーション医学会 編,リハビリテーション医学・医療用語集 第8版,文光堂
この授業科目の前提となる主な科目	特になし。
この授業科目から発展する主な科目	理学療法概論Ⅱ、基礎実習、評価実習、臨床実習

成績評価の方法	1)実技試験 2)授業態度
その他 受講生への要望等	医療職を目指す者として、基本的態度や学ぶ姿勢を身に着けてもらいたい。

授業科目名	理学療法概論Ⅱ		実務経験講師	—
担当教員名	矢口・向山・芳澤・笠木・大門・谷中田		実務経験	—
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	理学療法及び理学療法士概略を理解する。また、理学療法士になるための教育課程、理学療法学としての研究についても学修する。理学療法を学修する上で必須となる基礎科学及び基礎医学に早期に触れて、それに対する機能障害を理解することで理学療法の理解がスムーズに進むよう促す。			
授業科目の到達目標	① 遵法意識を醸成させるために必要な、論理構造の言語的思考と理解を向上させ説明ができる ② 理学療法の基盤となる「科学的思考」の基本が基礎医学を通じて理解し説明ができる ③ 他学習の基礎となる用語や概念を理解し憶える			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	矢口	理学療法総論(職能倫理)	講義	
2	矢口	理学療法・理学療法士の役割、位置づけ	講義	
3	向山	研究	講義	
4	向山	運動学習	講義	
5	大門	生体の形と動き(骨・関節, 運動方向)	講義	
6	大門	生体の形と動き(姿勢)	講義	
7	大門	生体力学	講義	
8	大門	生体力学	講義	
9	谷中田	筋力・筋持久力	講義、実技	
10	谷中田	廃用症候群(関節可動域制限)	講義、実技	
11	谷中田	廃用症候群(筋力低下)	講義、実技	
12	笠木	歩行	講義	
13	芳澤	脳の可塑性	講義	
14	谷中田	理学療法における物品	実技	
15	谷中田	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	配布資料
参考書・資料 等	1)中村隆一, 齋藤 宏 著「基礎運動学」医歯薬出版 2)細田多穂, 柳澤 健 編「理学療法ハンドブック第1巻」協同医書出版 3)中村隆一 著「入門リハビリテーション概論」医歯薬出版 4)大橋ゆかり 編「基礎理学療法学」医歯薬出版
この授業科目の前提となる主な科目	1)解剖学 2)生理学 3)物理学

この授業科目から発展する主な科目	1)運動学 2)理学療法評価学 3)運動療法学 4)物理療法学 5)地域保健福祉論 6)生活環境学 7)理学療法総論
成績評価の方法	1)筆記試験 2)授業態度
その他 受講生への要望等	この科目を通し、自分自身の将来像を少しでも描けるようになって欲しい。暗記が必要となる科目であるため、各自復習を怠らないように。

授業科目名	理学療法評価学Ⅰ		実務経験講師
担当教員名	芳澤 有希子・矢口 剛		実務経験
開講年度	2026年度	学 期	前期
年 次	1年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	理学療法を実施するために、対象者の全体像をとらえることは、とても大切な事である。理学療法評価学では、そのために必要な評価についてⅠからⅣに分けて学ぶ。評価は時として「理学療法は評価に始まり評価に終わる」と言われるほど重要である。講義内容は理学療法評価学実習に繋がる。Ⅰでは総論として評価全体に関することと、各論の形態測定について学ぶ。		
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 理学療法評価の意義と目的を説明できる ② 叙史的経過記録の4項目(S・O・A・P)について説明できる ③ 医療面接における質問方法の種類について説明できる ④ 四肢長・周径の測定点がわかる ⑤ 関節可動域測定(ROM-t)の基本軸・移動軸・参考可動域がわかる ⑥ 徒手筋力検査(MMT)の段階づけがわかる ⑦ 徒手筋力検査(MMT)の各運動方向における主動筋がわかる 		

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	芳澤	総論(導入): 評価の意義と目的を理解する ・評価とは?(その必要性) ・どのような目的で実施するか	講義:教科書① 板書、質疑応答	
2	芳澤	総論:評価の過程を理解する ・狭義の評価と広義の評価について ・評価の手順(トップダウンとボトムアップ)	講義:教科書① ・配布資料	
3	芳澤	総論:理学療法評価の対象、評価方法の種類 ・評価時期と目標設定 ・評価の尺度について	講義:教科書① ・配布資料	
4	芳澤	総論:記録、問題リストの整理の仕方 ・叙史的経過記録について ・ICFに沿った問題点の提示	講義:教科書① ・配布資料	
5	芳澤	各論:一般的評価事項、問診について ・医療面接について ・質問方法とコミュニケーション	講義:教科書① と配布資料	
6	芳澤	各論:形態測定(四肢長) ・身長、体重、体格指数 ・四肢長の測定点と測定方法	講義:教科書① と配布資料	
7	芳澤	各論:形態測定(周径) ・四肢周径の測定点と測定方法 ・体幹周径の測定点と測定方法	講義:教科書① と配布資料	確認テスト
8	芳澤	各論:関節可動域測定(基礎) ・基本的肢位と基本的運動方向 ・関節可動域制限因子	講義:教科書① と配布資料	確認テスト
9	芳澤	各論:関節可動域測定(表示法) ・測定値の表示のしかた ・測定上の留意事項	講義:教科書①	確認テスト

10	芳澤	各論:関節可動域測定の実際 ・肩甲帯、肩、肘、前腕、手、母指、指 ・基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域	講義:教科書①	確認テスト
11	芳澤	各論:関節可動域測定の実際 ・股、膝、足、足部、頸部、胸腰部、その他 ・基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域	講義:教科書①	確認テスト
12	芳澤	各論:関節可動域測定(臨床応用) ・全身的な変形、脊柱の変形 ・上肢の変形、下肢の変形	講義:教科書① ・参考書①	確認テスト
13	矢口	各論:筋力検査について ・徒手筋力検査の段階づけ ・スクリーニングと実施のための用意	講義:教科書②	
14	矢口	各論:筋力検査について ・各運動方向における主動筋 理学療法評価学Ⅰのまとめ	講義:教科書②	
15	芳澤	定期試験		

使用テキスト	① 潮見泰藏、「リハビリテーション基礎評価学」第2版、羊土社 ② 津山直一・中村耕三(訳)、「新・徒手筋力検査法」原著第10版、協同医書出版社
参考書・資料等	① 中村利孝・松野丈夫 監修、「標準整形外科学」第15版、医学書院 ② 田崎義昭・他 著、「ベッドサイドの神経の診かた」、南山堂
この授業科目の前提となる主な科目	①「解剖学Ⅰ・Ⅱ」②「運動学Ⅰ・Ⅱ」③「運動学実習Ⅰ・Ⅱ」④「リハビリテーション概論」 ⑤「理学療法概論」
この授業科目から発展する主な科目	①「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」②「評価実習」③「臨床実習」
成績評価の方法	① 定期試験
その他 受講生への要望等	① 受講中の疑問点は、なるべくその場で質問することを勧めます。もちろん講義終了後でも可。 ② 質問に対しては、間違っても良いので何かしら答えるようにしてください。

授業科目名	運動療法学 I		実務経験講師	—
担当教員名	谷中田修右・向山弘一・大門友加・芳澤有希子		実務経験	—
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	様々な障害に対する基本的運動療法を学修する。			
授業科目の到達目標	① 基本的運動療法の理解をする。 ② 実技を行うためのイメージをすることができる。 ③ 前提となる科目の知識を活かすことができる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	谷中田	運動療法の基礎、リスク管理、コンディショニング	講義	
2	谷中田	同上	講義	
3	谷中田	基本的運動療法①	講義	
4	谷中田	関節可動域制限	講義	
5	向山	基本的運動療法②	講義	
6	向山	随意運動と運動制御	講義	
7	向山	筋力低下、筋持久力低下	講義	
8	大門	協調性障害、筋緊張異常	講義	
9	大門	感覚障害に対する運動療法	講義	
10	向山	バランス障害に対する運動療法	講義	
11	谷中田	基本動作能力に対する運動療法	講義	
12	谷中田	移動能力に対する運動療法	講義	
13	大門	高齢者に対する運動療法	講義	
14	芳澤	その他の疾患に対する運動療法(がん, ウィメンズヘルスなど)	講義	
15	大門	定期試験		

使用テキスト	標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第5版, 福井勉 編, 医学書院
参考書・資料 等	配布資料
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学 I、生理学 I、運動学 I、物理学
この授業科目から発展する主な科目	運動療法学 II、運動療法学実習 II、運動療法学 III、運動療法学実習 III
成績評価の方法	定期試験、授業態度、身だしなみなど総合的に評定をつける。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	運動療法学実習 I		実務経験講師	—
担当教員名	谷中田修右・向山弘一・大門友加・芳澤有希子		実務経験	—
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	様々な障害に対する基本的運動療法を実施する。			
授業科目の到達目標	① 実習科目に適した身だしなみを整えることができる。 ② 運動療法における基本的手技(触る、動かす)が実施できる。 ③ 解剖学、生理学、運動学、物理学を捉えた中で基本的運動療法が実施できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	谷中田	運動療法の基礎、リスク管理、基本的手技(触り方、動かし方)	講義、実習	
2	谷中田	関節可動域制限に対する運動療法	実習	
3	谷中田	同上	実習	
4	向山	筋機能障害に対する運動療法	実習	
5	向山	同上	実習	
6	大門	協調性運動障害に対する運動療法	実習	
7	大門	同上	実習	
8	谷中田	基本動作能力に対する運動療法	実習	
9	谷中田	移動能力に対する運動療法	実習	
10	向山	バランス障害に対する運動療法	実習	
11	大門	感覚障害に対する運動療法	実習	
12	大門	高齢者に対する運動療法	実習	
13	大門	同上	実習	
14	芳澤	その他(がん, ウィメンズヘルスなど)	実習	
15		定期試験		

使用テキスト	福井勉 編:標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第5版,医学書院
参考書・資料 等	配布資料 石川齊 他編:図解 理学療法技術ガイド, 文光堂
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学 I、生理学 I、運動学 I、運動学 II、運動学実習 I、運動学実習 II、運動療法学 I
この授業科目から発展する主な科目	運動療法学 II、運動療法学実習 II、運動療法学 III、運動療法学実習 III
成績評価の方法	定期試験、授業態度(実習への取り組み)、身だしなみ
その他 受講生への要望等	

授業科目名	基礎実習		実務経験講師
担当教員名	矢口 剛・向山 弘一・芳澤 有希子・笠木 広志 大門 友加・谷中田 修右		実務経験
開講年度	2026 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	24 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	病院や介護老人保健施設で勤務する理学療法士の業務を見学することで、理学療法士として働く自分の将来を思い描く礎とする。また、これから必要となる認知領域(知識)・情意領域(態度や習慣)・精神運動領域(技能)について知る契機とする。		
授業科目の到達目標	① 実習施設やリハビリテーション部門、理学療法士の役割についていえる。 ② 施設における該当部署の役割・設備・機器についていえる。 ③ 対象者との接し方について見学し、理解し、模倣できる。 ④ 車椅子を使用しての移動介助ができる。 ⑤ 歩行練習の際に、立ち位置を考慮できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1・2	オリエンテーション(事前注意事項・概要説明)	講義	事前学習として医療・福祉・健康増進、介護予防について要約する。
3・4	対人援助職の基礎(医療面接)	講義と演習	
5・6	検査・測定技術	講義と演習	
7～9	介助方法(移乗動作)	講義と演習	
10～13	学外実習(病院)	実習	
14～17	学外実習(施設)	実習	
18～20	学外実習(介護予防)	実習	
21～24	報告会	講義と演習	学外実習で見学した事柄について主観的情報(S)、客観的情報(O)、評価(A)に沿って発表を行う。

使用テキスト	① 飛松 好子 編著「新イラストによる安全な動作介助のてびき」医歯薬出版
参考書・資料 等	① 中村隆一、齋藤 宏 著「基礎運動学」医歯薬出版 ② 細田多穂, 柳澤 健 編「理学療法ハンドブック第1巻」協同医書出版
この授業科目の前提となる主な科目	①「解剖学Ⅰ・Ⅱ」②「運動学Ⅰ」③「運動学実習Ⅰ」④「リハビリテーション概論」 ⑤「理学療法概論」
この授業科目から発展する主な科目	①「評価実習」②「臨床実習」
成績評価の方法	① 見学実習時の態度 ② レポート内容 ③ 報告会の発表および質疑応答 これらを総合的に判断し評定をつける
その他 受講生への要望等	① 初めての学外実習です。実習先では社会人・医療人としての振る舞いが要求されます。日頃から意識して行動することをお勧めします。

授業科目名	理学療法総論Ⅰ		実務経験講師
担当教員名	芳澤有希子 他		実務経験
開講年度	2026年度	学 期	後期
年 次	1年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	1学年のまとめとして国家試験に即した基礎医学の知識習得を「理解と表出」する。		
授業科目の到達目標	① 理学療法士国家試験をふまえて、特に解剖学・生理学・運動学の範囲における「基礎」の理解と表出ができる。 ② 「理解と表出」のための記録が作成できる。 ③ 国家試験に出題される解剖学・生理学・運動学の範囲において、十分な得点が取れる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	骨(基礎・関節の構造)	AL	
2	筋(構造・機能・作用)	AL	
3	関節(各関節の構造と機能)	AL	
4	神経の興奮伝導	AL	
5	中枢神経	AL	
6	末梢神経(末梢神経の機能・脳神経・脊髄神経・支配神経)	AL	
7	反射と筋活動(伸張反射・Ib 抑制・相反神経支配)	AL	
8	感覚(分類・感覚受容器・特殊感覚)	AL	
9	呼吸器系	AL	
10	循環器系	AL	
11	消化器系	AL	
12	排泄(腎臓・泌尿器)、代謝	AL	
13	ホルモン	AL	
14	姿勢・歩行・力学	AL	
15	定期試験		

使用テキスト	基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編[改訂第3版]
参考書・資料 等	クエスチョン・バンクPT・OT国家試験問題解説 共通問題 メディックメディア
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学、生理学、運動学
この授業科目から発展する主な科目	理学療法総論Ⅱ
成績評価の方法	定期試験、Quiz(小テスト)、出席及び授業態度
その他 受講生への要望等	